



● NPO事業 ●

介護予防に向けたNPOの 農とのふれあいサービス事業

❖…………… 青空ふれあい農園・ハーブ倶楽部 (京都府亀岡市)

■ プロジェクトの経緯

特定非営利活動法人(NPO法人)「青空ふれあい農園・ハーブ倶楽部」は、JR京都駅から山陰本線に乗り継ぎ西に30分、亀岡駅より南西3kmのところにある。そこには、田んぼの周りに真っ赤に咲く彼岸花と黄金色の稲穂が美しい独特の風景が広がる。農園はその真ん中

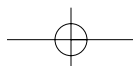
にあり、その場にいるだけで気持ちを癒してくれる。

発起人の久保末子さんが活動をはじめたのは、「母の背中を見ていたから」と言う。詳しく理由を聞いたところ、年老いても農を楽しんでいた母親が、最後にはデイサービスなどの施設を利用するが農には触れられず、12年前に91歳で亡くなったことがきっかけだっ

た、とのこと。

「母親が農に親しんでいた姿を思い浮かべると、土に親しみながら人生の最後を迎えられたらどんなによかっただろうに」と強く感じるという。

30代の頃に、目の不自由な人への朗読ボランティアの会を立ち上げ福祉活動に明るかったことや、専業農家の父親から譲り受けた約10アールの農地





左 ● 鮮やかな赤紫色の花を咲かせる“まろう”摘みを楽しむ入園者 上 ● 6月。夏野菜に手入れをする入園者の皆さん
 下左 ● 全景。農園周囲に広がる青田 下右 ● 田んぼの周りに真っ赤に咲く彼岸花

を活用し、1989年（母親が亡くなる10年前）から「遊び農園」と名づけた農園を中心とした地域コミュニティの活動（イモ掘り、野菜作り）を実践中でもあった。それらの経験から、母親の逝去をきっかけとして、農を素材とし

た元気な高齢者を対象にしたサロンを12年前から始める。これが農とのふれあいによる介護予防を目指す活動へとつながっていった。

2004年度は、「福祉医療機構助成」により農を主体とした農園デイサービス

事業と、高齢者の働く場づくり（高齢者による高齢者のためのコミュニティビジネス）を目指し「ハーブ栽培・加工・販売」事業の基盤を整備した。

2007年からは、先に述べた、目の不自由な人への福祉活動の経験と、盲導犬クイールの映画（地元亀岡を舞台にした『盲導犬クイールの一生』）との出会いにより、高齢者いきいき活動としての、地元産米粉使用の「クイールサブプレ」作り事業も開始した。

2009年度には、サブプレ製造加工所を京都府の交付金で設置。現在、高齢者ふれあい事業・ハーブ事業・サブプレ事業を実施しており、「高齢者いきいき支援事業」として、土と、土からの恵みを中心とした事業を展開している。

■ 事業の歩み

平成10年9月	任意団体「老人ふれあい作業所いきいき」立ち上げ 高齢者ふれあいサロン実施
平成11、12年	高齢者いきいき創造事業助成
平成16年4月～ 22年3月	福祉医療機構助成金により「農園デイサービス」立ち上げ実施
平成17年1月	特定非営利法人青空ふれあい農園・ハーブ倶楽部…… 認証登記
平成17年4月～ 20年3月	亀岡市委託事業「生きがい活動支援通所事業」として「農園デイサービス」継続運営
平成19年度	亀岡市委託事業「介護予防教室」実施 京都府地域力再生プロジェクト交付金助成 クイールサブプレ事業を開始
平成21年度	京都府地域力再生支援プロジェクト交付金助成 サブプレ製造加工所をつくる



重利農園。タマネギの収穫風景

■ 活動の内容

6年間継続した農園デイサービス事業の休止と次への展開

農園デイサービスは、2004年から開始し、2005年には、NPO法人(青空ふれあい農園・ハーブ倶楽部)の認可も受けた。誰でも利用でき、デイサービスの利用料金は一回1000円(収穫野菜類は利用者に配給)。農園では年間計画に基づき、トマト、キュウリ、ナス、サツマイモ、ハクサイ、ダイコンなどの野菜類とハーブ類を栽培し、イベントなどを企画し、皆で、高齢者の健康、生きがいと仲間づくりをアクティブに実践していた。

2010年度3月での活動状況は、利用者7、8人、スタッフ6、7人(市内在住の高齢一般市民)と久保さんの夫が加わる。前日は、翌日の天候によって、別メニューの準備が必要。月4回(毎週1回)を継続するには、植物の成長に合わせた柔軟な企画準備が欠かせない。ほかの活動に割く時間もなくなるほどそれに付きっきりとなり、維持するために大変な労力を要していた。

その一方で、2009年より府の助成



田園の真ん中にある農園に併設された工房全景



加工ハーブティー各種

を受けて開始していた、クイールサプレ事業(亀岡地域ブランドに認定)を軌道に乗せることを優先するとし、6年間続けた農園デイサービス事業を2010年4月よりやむなく、一時休止した。

「青空ふれあい農園」を取り巻く状況

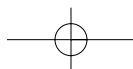
久保さんは、正直に、自身の力不足も承知しているとしながらも「地域の理解不足があり、最初は奇異な目で見られた」と残念がる。地元で協力してくれるボランティア団体もなく、まだまだ地域で受け入れてもらえる状況にないとのことだ。

「行政は、事業として助成支援をしてくれるし、今も受けている。しかし現場に足を運んでくれたことがなく、事業実績報告を求めるだけ。サービスと

いっても行政の担当は農政課。私から、高齢福祉課の所掌では、といっても相手にしてもらえない。縦割り行政の壁を感じた。現場に足を運んでくれたり適切なアドバイスがあってもよいのでは……親身に見届けてくれない」と語る。久保さんは、多くの元気な高齢者の介護予防につながる取り組みこそ重要で、そのソフト支援の必要性を強く指摘する。

■ 現在の事業展開

現在、主軸はハーブ事業とクイールサプレ事業の二つの事業にシフトしており、農園デイサービスの利用者が、クイールサプレ事業のスタッフとして参画。そのなかの一人は、農園での野菜





クイールサブレ作りのスタッフ



ハーブティーを楽しむ園主、久保夫妻



ミントの摘み取りをする入園者

づくりを希望して自主的に継続実施している。このことにふれて、「農園デイサービス事業」で自主的に事業に参画してくれた成果として、次の展開への力となったと久保さんは語る。

ハーブ事業と高齢者ふれあい活動

会費3000円/人で、週に3回活動を実施。参加者にはポイント制で200円/時を支払うことにしているが、多くはボランティアを申し出ている。参加者の属性は、50～70歳代の亀岡市内在住の一般市民。ハーブ園では、ローズマリー、カモミール、バジル、ミント、ラベンダーなどのハーブ類を化学肥料や農薬は一切使用しないで栽培している。

参加者は、まず血圧測定を行い、健康体操をした後、自家製のハーブティー

を飲みながらお喋りを楽しむ。その後、工房近くの「ふれあい農園」と、約300m離れた「重利農園」に移動し、ハーブの植え付け、手入れと野菜類の栽培、収穫をする。参加者より「皆さんと一緒に体を動かすことは、無性に楽しい」との言葉を頂いているとのこと。

このスタイルは、農園デイサービスでのやり方と同じであり、共同作業を

通しての介護予防効果を強調する。

収穫したハーブは、農園の一面にある工房でハーブティーに加工され、一袋400円で販売。市内の「道の駅」や、京都のあるお寺で最近立ち上がった「手作り市」に出店しており、試飲してから購入できる。

クイールサブレ事業

京都府の地域力再生支援プロジェクト交付金を受けて、昨年8月に市内に設置した「青空ふれあい工房」でクイールサブレを製造している。サブレは、地元産の米粉と農園で育てたローズマリーを原料にしている。現在は月約300枚（一回の作業で100枚）を生産加工し、一枚250円で販売する。売上の一部は、関西盲導犬協会に寄付。「クイールサブレが、盲導犬の育成に役立つことで高齢者のやりがいが高まってくれば」と久保さんは期待を寄せている。

■ 今後の取り組み

高齢者の「元気に」つなげたい。そんな一心から、福祉医療機構助成金、京都府地域力再生支援プロジェクト交付金の支援を受けながら、「農園デイサービス」（介護予防・高齢者いきいき支援NPO）を興した久保さんは、いまだ道半ばと語り、4年後には「加工所を付帯した、農園付きグループリビング」の建設に向け、夫妻の二人三脚で活動をさらに発展させようと考えている。

※ …………… プロジェクト概要 …………… ※

事業名：高齢者いきいき支援 青空ふれあい農園・ハーブ倶楽部
 整備主体：NPO法人青空ふれあい農園・ハーブ倶楽部
 土地所有者：久保末子（約10アール）
 事業補助：平成11、12年/高齢者いきいき創造事業助成、平成16年4月～17年3月/福祉医療機構助成金、平成19年度京都府地

域力再生支援プロジェクト交付金助成、平成21年度京都府地域力再生支援プロジェクト交付金助成
 連絡先：NPO法人青空ふれあい農園・ハーブ倶楽部（重利農園）
 京都府亀岡市曾我部町重利矢折17番地
 TEL・FAX. 0771-24-3877
 ホームページ：http://www.k-herbclub.com/